



「寺島なす」復活の取り組みをPR 江戸東京野菜フェアが錦糸町で開催！

第4回 江戸東京野菜フェア

- 期日：9月7日(金)～9月30日(日)
- 場所：JR錦糸町駅ビル「テルミナ」((株)錦糸町ステーションビル)
- 主催：(株)錦糸町ステーションビル
- 内容：江戸東京野菜の紹介、販売及び食にまつわるトークショーやワークショップ等

江戸東京野菜を様々な方法でPR！

JR錦糸町ビル「テルミナ」で、江戸東京野菜にまつわる様々なイベントが開催されています。江戸東京野菜は、江戸から東京にいたる歴史の中で市中や近郊で栽培され、自家採種をしながら今日まで引き継がれた固定種の野菜で、現在48種類が認定されています。

フェアの期間中は、墨田区にゆかりの「寺島なす」をはじめ、「滝野川ごぼう」・「内藤かぼちゃ」・「内藤とうがらし」等の江戸東京野菜を使用したフェア限定メニュー（「寺島なすのあんかけ土鍋ごはん」や「内藤かぼちゃまんじゅう」等「テルミナ」内14店舗で17種類）の提供やテルミナB1の青果専門店「九州屋」で「寺島なす」・「奥多摩わさび」・「むら芽」・「おいねのつる芋」等8種類以上に及ぶ江戸東京野菜の販売が行われています。

さらに、9月8日(土)には江戸東京野菜コンシェルジュ協会の大竹代表による「江戸東京野菜の特徴や寺島なす復活の取組」、文京区立金富小学校栄養士の松丸さんによる「江戸東京野菜の栄養成分や給食使用への取組」等のトークショー、9月15日(土)には高崎市出身の葉画家である群馬直美さんによる江戸東京野菜を使ったワークショップ「野菜スタンプでサコッシュバックを作ろう」を行うなど江戸東京野菜の魅力を様々な方法でPRしていました。

地域を挙げて「寺島なす復活プロジェクト」が進行！

本取り組みは数ある江戸東京野菜の中からテルミナが所在する墨田区に縁がある「寺島なす」に着目して2015年から始まりました。江戸時代の墨田区東向島の地名はかつて寺島とって、隅田川上流から運ばれてくる肥沃な土壌で「寺島なす」が盛んに作られていました。関東大震災以降は宅地化が進み、幻のなすとして忘れ去られようとしていましたが、種子が(独)農業生物資源研究所のジーンバンクに保存されていることがわかったことから、第一寺島小学校の創立130周年記念事業での栽培、給食で寺島なすを使用したメニューの提供、シンボルキャラクター「寺島茄子乃介」の作成、寺島なすのジャムを詰めた「寺島なすおはぎ」の開発等地域を挙げて様々な「寺島なす復活プロジェクト」が行われています。

「寺島なす」は大きさが鶏卵と同じほど小振りのなすで、天候変化や病気に弱く栽培するのは大変ですが、なす本来の香りが有り肉質も緻密でそのままだと堅いが加熱するととろみが出てクリーミーになり、焼きナスや天麩羅、煮びたし等に適しているとのこと。



江戸東京野菜フェアのちらし



江戸東京野菜の販売



寺島なす展示



江戸東京野菜コンシェルジュ協会トークショー